こわいもの

「ゆるトピ」は今回で3稿目になりました。
これも皆様のおかげでございます。ありがとうございます

さて、この季節になると林間学校での**怪談話**とか**肝試し**を思い出します。
思い出すといっても懐かしいのではなく、
全力で避けていたということです。
（キライなのです、決して怖いのではなくて、、、）

なんで**夏＝怖い話**になるのか調べてみました。

日本ではお盆にあの世から**霊魂**が帰ってくるとされていますが、
無縁仏や恨みを抱いた霊も帰ってくると考えられていました。
浮かばれぬ霊の苦しみを代わりに演じ表現することで**恨み**や**怒り**が**鎮め**られると、
農村では民族芸能の**「盆狂言」**「盆芝居」が行われていました。

江戸時代では庶民にとって最大の娯楽が**歌舞伎**でしたが、
冷房がないため夏の芝居小屋はメチャ暑くなるうえ、
お盆の頃（旧暦7月15日前後）に一流役者は休みを取るため、客が激減。
そこで、盆狂言を刺激的で大がかりに演出し怖く**アレンジ**してみたら
演技力の足らない二流役者でも**大当たり**。
目先の変わった怪談などが多くなり、
やがて怪談が夏の風物詩になっていったようです。

どの国のどの時代でも**エンタメ**業界は華やかだったのでしょうね。
（江戸時代にマゲを結ったプロデューサーやディレクター、
脚本家、振付師、美術、照明、衣装、音響、
プロモーターが居たのかと想像すると、
なかなか興味深いです。
さすがに、カメラマンは居なかったかと。）

最近減っているようですが、夏になると必ずあった怖いTV番組。
この手のジャンルも超苦手です。（絶対見ません）
タイトルからしてすでに怖い。
どうしたら怖くなくなるかなと考え、
大阪弁にしたらどうかと。
（しかも、お母さんが子供をからかって怖がらせる感じのゆっくり低い声で）
「あんたの～知らん世界」
「ほんまにあった怖～い話、、、、　知らんけど」

「恐～怖、さんまの～はらわたぁ～」
（どう、こわいですか？）

「**幽霊**」と「**お化け**」は、同じ意味で使われることも多くなっていますが、
「お化け」は動物が変化したものや「妖怪」なども含むのに対し、
「幽霊」は主に「死者（人間）の霊」を指すという点が違います。

昔からこわいものの例として
「地震、雷、火事、おやじ」
と言われてきました。

おやじは親父？
「親父」のイメージといえば、
テッペンに頭髪１本という特徴的なルックスで
日曜日の夕方、息子さんに向けて、「バッカも～～～ん！」と仰っている
たぶん日本一有名な**お父さん**ではないでしょうか。
（設定では 54 歳だそうです。）
銀座にある山川商事にお勤めです。
（奥様は 50 歳の専業主婦、旧姓は石田さん。
長女 24 歳も専業主婦、そのご主人は大阪出身で海山商事にお勤めの 28 歳、
このお二人の息子さんは 3 歳です。
長男はかもめ第三小学校 5 年 3 組、次女は 3 年生。
ペットは雄猫で名前はタマ。
このご一家のことは京都大学の日本史の問題として出題されたり、
教科書の題材になるなど、
東京都世田谷区桜新町あさひが丘三丁目にお住まいの
とても有名な 7 人家族です。
すべて**未確認情報**です、念のため。）

所説あるようですが、おやじは親父ではなく「おおやじ（**大風**）」で
台風のことだったのではないかとも言われていますが、
意図的に韻を踏んで面白い**オチ**になったのかも。
いずれにしても、現代の怖い代表に親父がノミネートされることはありません。
（間違いなく、**選外**です）

今風に言うなら、
地震、雷、火事、おかん。
地震、雷、火事、ヒグマ。

シミ、シワ、タルミ、体重計。
ヘビ、クモ、ヒアリ、スズメバチ。
あとは、
ダイエット後のリバウンド、オンラインゲームの請求書
カウンターだけのお寿司屋さん、記憶力バツグンな人
必ずファイルを壊す人、一党体制と独裁者
妬み、いじめ、心の闇

やっぱり一番怖いのは「人」なのでしょうか。

でも、
夢でも会いたいのも「人」。
幽霊であっても、もう一度会いたいのも「人」だと思います。

♫　おばけなんて　ないさ～　　おばけなんて　うそさ　♫

（つづきます）